



小林さんを中心に研究農場のスタッフ。  
向かって右から二番目が、農場長の和泉良信さん。

足すれば、CSも自然に実現するという発想だ。

「私は会社では必ず、スタッフ全員と言葉を交わすようにしていますし、誕生日には一人ひとりにプレゼントと手紙を渡します。仕事についての意見も積極的に聞き、極力、本人の希望に沿うようにします。派遣社員の人たちに対して、1カ月の中で自由に時間を割り振りして働ける柔軟な勤務ができるようにしていますし、代休なども取りやすくしています。今後は福利厚生なども、もっと充実させていきたいですね」。

こうした考え方が奏功して、以前は苦勞していた小林種苗の人材採用は順調で、従業員の定着率も極めて高いという。「今、35才から40才くらいの社員がこれから中心になり、力を発揮してくれると思います。それによって小林種苗も変わるでしょう。その意味で、小林種苗は“これからの会社”なのだと思います」。

小林さんが結婚したのは、平成13年(2001)のこと。奥様の百代さんとの間に、長男(16才)、長女(14才)、次女(7才)の三人のお子さんがある。

### より多くの会員の参加を促したい

小林さんが日本種苗協会兵庫県支部長に就任したのは、令和元年(2019)6月である。

会員数は30社。支部では毎年6月に総会を実施するほか、年に一回の役員会を行なっている。

「どの支部でも同じだと思いますが、会員数が徐々に

減っていく中、会員数を増やしたいとは考えていますが、なかなか良い方法が見つかりません。また総会への出席者は同じ人になりがちなので、これまで来ていない会員にも参加してほしいと考えています」。

総会の後には講演を行なっている。今年は兵庫県農林水産技術総合センター長を講師に招き、懇親会、意見交換会を実施した。

食育活動では、小林種苗、水田種苗園、山陽種苗、瀬尾種苗園の4社が、5校の小学校に対して行なった。

また兵庫県には日本種苗協会の兵庫県支部よりも長い歴史を持つ兵庫県種苗業組合がある。兵庫県支部長は、種苗業組合の組合長も兼任するのが通例になっている。

「兵庫県種苗業組合は、兵庫県との結びつきが強く、県主催のイベントなど、公的行事に協力する仕事が多々あります」。

(取材・文：織田孝一)

### ■兵庫県支部■

- 支部長/小林 稔  
(小林種苗株式会社 代表取締役)
- 会員数/30社
- 特色/兵庫県支部の支部活動は、毎年6月に開催される総会と、年に一度の役員会である。役員会の時期は決まっていないが4月に開催されることが多い。活動に積極的な若手会員がもっと増えることを期待している。

